

氏名	西 田 篤
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4013 号
学位授与の日付	平成17年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Characteristics and Outcomes of School Refusal in Hiroshima, Japan: Proposals for Network Therapy (日本の広島県における不登校の様態と転帰－ネットワーク 治療の提案－)
論文審査委員	教授 川上 憲人 教授 大塚 頌子 助教授 吉永 治美

学位論文内容の要旨

広島県下の福祉、教育、保健衛生、医療の各分野の主たる不登校治療機関で、初診不登校児の調査をした。県下全体で、1256名が対象であり、13-14歳がピークであった。さらに、各年代ごとに特有の不登校像を呈し、小学生は分離不安を、中学生は外向きの行動化を、高校生は思春期的な課題達成の失敗を中核としていた。また、学際的な不登校の治療連携は、「専門性の条件」を主たる理由に行われていたが、その実施率は低かった。

不登校治療の課題は、合併問題と関連した状態の多様性や複雑性にどう対応するかにある。そのためには、前提として、学際的な不登校治療の場に、医療モデルの治療原則が共通基盤として認識されることが重要である。その上に、各治療機関は、合併問題の方向性と発症からのステージの二軸によって、専門的治療の対象を定める。そして、児童精神科医療機関が、その連携の中心となったネットワーク治療が、不登校への有効な治療手段であると考えられる。

論文審査結果の要旨

本研究は、広島県の複数機関を相談・受診した不登校児童・生徒1256名の属性、病態、合併する問題、相談・受診行動、転帰について調査を行い、小学校児童、中学校生徒、高校生徒の別にその特徴を明らかにしたものである。また、申請者はその上にたって地域における不登校の治療ネットワークを提言している。本研究は、不登校の実態とその治療体制について新しい知見を提案しており、精神医学に寄与する価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。